

THETA で遊ぶ 360 度の世界

360° 全周パノラマ画像が簡単に撮影できる THETA です。発売されたのを見て、とても興味があつたのですが、遊びで買うにはいささかお値段が厳しかったので、そのまま指をくわえている状態だったのですが、松阪市天文台の運営費から買うことになったので、テスト撮影の名目で試用しました。

これまで、全周パノラマを作るとなると、魚眼レンズで水平方向に回転しながら何枚かの写真を撮って、これをつなぎ合わせるという作業が必要でした。この方法だと、写真の撮影に手間がかかるうえに、合成して展開した画像を作るためのソフトが特殊で、なかなか手を出しにくい領分でありました。

ところが THETA では、本体の表と裏に魚眼レンズが仕込まれていて、展開画像の作成も付属ソフトとの連携でやってくれるという、至れり尽くせりのカメラに仕上がっています。

撮影は、カメラを手持ちして（ハヤタ隊員がウルトラマンに変身するときの感じで）シャッターを切ることもできますが、それでは自分の頭が写ってしまうことになるので、基本は、あらかじめ三脚に立てておいて wifi 接続したスマホのソフトから遠隔操作を行うこととなります。

そしてこのスマホ用ソフトが結構優秀で、10m 以上離れた物陰から転送されてくるモニタ画面を見て、撮影をすることができます。

そして、マニュアル撮影では、下写真のように十分に星も写すことができますから、タイムラプスも楽しいかもしれません。

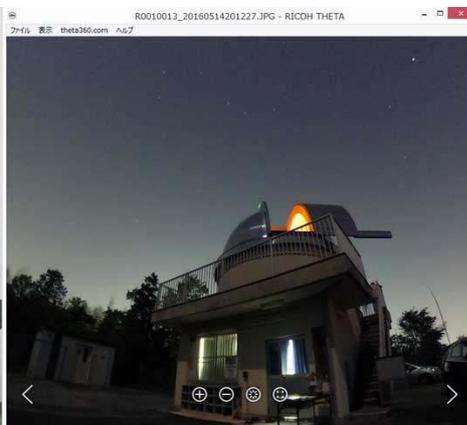
ただ、スマホに依存しすぎなところもあって、本体だけではとっさにマニュアルの設定ができないなど、オーロラのような条件の厳しい撮影にはいまひとつの感があります。できれば、有線のリモコンがほしいなと思いました。

変化球として面白い使い方を紹介すると、撮影した画像を利用してステラナビゲータやステラリウムの地上風景を作成することができます。方法は、ステラリウムの場合、THETA のソフトで 360 度に展開されたパノラマ画像をフォトショップなどの画像処理ソフトに取り込んで、空の部分 transparent に消してしまったあとに、縦 2,048 ドット、縦 1,024 ドットにリサイズしたうえで PNG ファイルとして保管し、イニシャルファイルを添えて Landscape フォルダに格納するという手順になります。ステラナビゲータの場合は、もう少し手間がありますが、PNG ファイルを作る手前までは同じですからあとは Web を参照してください。

とにかく、いろいろと楽しめそうな THETA があります。個人的にもほしいな・・・



本体



パソコンで再生した画像
(北斗七星)



ステラナビゲータの背景に使用した例

メカが大好き IchigoJam

かつてコンピュータを組み立てる（といっても、パーツを組み合わせてパソコンを作るのではなく、LSI やメモリをハンダ付けして組み上げること）は、大変な作業でした。電子工作では、部品の調達から、基板の配線、調整など、完成までに様々な難所があるのですが、コンピュータを作る場合は、とにかくハンダ付け量が半端ではありません。また、配線が完了しても、設計したコンピュータにあわせたソフト（モニタプログラム）を作る作業があって、いくら暇な大学生でも、1台作るのに数か月単位の日数を要していました。

そのような時代から、今やわずか 1500 円で Basic が搭載されたコンピュータの組み立てキットが発売されていて、それも初期のマイコン並みの能力があるということで、隔世の感があります。

今回は、IchigoJam というキットを紹介しますが、同じような感じで、MachiKania とか OrangePico とかいろいろなコンピュータキットが発売されているようです。（伝統的にコンピュータの名前には果物が多い）

パソコンではなくて、小型のコンピュータで遊ぶということであれば、命令通りに機械を動かしたり音を出したり、画面表示だけでなくメカと組み合わせができるのが面白くて、IchigoJam は、（Basic 自体は小さいのですが）その辺、様々な応用が利くような作りになっているのが素敵です。ちょっと遊ぶのには面白いなあと感じました。



Books & CDs サライ6月号・宮沢賢治に学ぶほんとうの幸い

今年は宮沢賢治の生誕 120 周年にあたるということで、あちらこちらの雑誌で同氏を特集している記事を目にします。でも 120 年とはなんとも中途半端な数字ではないかと思っていたら、還暦（60年）の倍の 120 年は「大還暦」と呼んで大きな節目の年にあたるのだそうです。

つい数年前には没後 80 年とかで、様々な特集がされているのを見かけましたが、またも、宮沢賢治の作品が語られる時がやってきました。

宮沢賢治といえば、星屋さん的には銀河鉄道の夜でありましょう。学校の教科書では雨ニモマケズでしょうか。そのほかにも、人それぞれ心に残る賢治作品を持っていらっしゃると思います。

作品そのものは昔から変わることはないのに、その時代時代に生きる人に向けて新しいメッセージを届けてくれるというのは、作品の永遠性を感じます。

それにしても、この雑誌の特集のタイトル「ほんとうの幸い」なんていう言葉に惹かれてしまうというのは、とうとう焼きが回ってきたのかと感じて、いかんいかんと思ってしまう。



編集雑記

THETA によるパノラマ画像は、静止画なのに自由にいろいろな方向へ動かすことができるので、まるで動画を見ているような錯覚に陥ってしまい

ます。そして、THETA で撮影した動画はさらに面白い！久々の最高のおもちゃでした。

Kz_Wada 和田一人 Kazuto.wada@nifty.com